【卒論・修論の執筆について】
京都大学文学部／大学院文学研究科　スラブ語学スラブ文学専修

●分量　規定では 400 字詰原稿用紙 50 枚までだが、それほど気にしなくて良い。引用のロシア語は必ず自分で翻訳すること。
●言語　原則として日本語。場合によっては英語ないしロシア語を認めることもあるが、事前に指導教員の承認を得る必要がある。
●要旨　本文が日本語の場合はロシア語で 200 語程度。本文が英語ないしロシア語の場合は日本語で 4000～6000 字程度。

●執筆に向けて読まなければならない文献
卒論：①対象テキスト（ロシア語）　②対象テキストに関する日本語文献（図書、論文）全
　　③重要なロシア語ないし英語文献（図書、論文）数本
修論：①と②は卒論と同様
　　③ロシア語と英語の先行文献：全

●論文の組み立て方
①何を対象とした論文か
②その対象を研究する理由、動機付け
③アプローチ・分析に用いる方法・枠組
④その方法・枠組を用いる理由、根拠
⑤具体的な分析→結論

＊直感的に気になったこと、こだわりのあることを言語化・論理化する作業。
＊特に③と④については、先行研究の概観・要約とそれらに対する批判ないし違和感を出発点に考えると（先行研究と自分の方法の違いを説明しようとすると）、自分なりの視点を確立しやすい。

●資料文献の収集方法
・まず KULINE で検索。ロシア語学・スラブ文献学関係は文学部図書館に、文学・文化関係は吉田南図書館に多い。中村研究室にも一定の書籍があり、短期貸出も可。
・KULINE→論文検索→日本語論文は CiNii
　　外国語論文は Web of Science が概してデータ豊富
・図書館のサイト経由なら、電子ジャーナルや電子ブックも無料で読める。活用すること。
・Google でキーワードを入力検索も有効な方法
・読んだ論文の「参考文献」や「注」から、必要な外国語文献を選んで探す。

●資料文献の入手方法
・論文はウェブから PDF ファイルでダウンロード等できる場合が多い。著者名、論文名をキーワードとして入力し、探してみる。
・KULINE→「文献取り寄せ（ILL）ガイド」欄を参照し、MyKULINE に要登録→「文献複写申込」「図書借用申込」。書誌データや KULINE の該当ページを教員に送れば、ある程度の本数なら専修経費で支払い可能。

●資料文献の許容範囲

・書籍と学術雑誌所収論文が基本。
・ウェブ上にだけある論文は、執筆者の文責と掲載機関が明確である場合のみ可。
・ブログやブックレヴュー等は、現代の読者の意識を探る等の調査対象としてのみ可。これらは学術論文ではない。

●論文や注の形式
・引用は、上下一行ずつアケ、2－3 字分右へインデント
・注の書式は次ページ以降を参照してください。

●参考文献リスト
日本語文献の場合は著者の姓の五十音順、ラテン文字・キリル文字記載の文献の場合は、著者の姓のそれぞれのアルファベットにおける順に基づいて配列する。

【博士論文の執筆について】
京都大学大学院文学研究科スラブ語学スラブ文学専修

提出要件
1. 各年次研究報告書を 3 度にわたり提出していること
2. 博士課程で専修が指定するゼミ演習に 3 年間参加していること。ただし留学時はこの限りではない。
3. 雑誌掲載論文が 2 本以上、学会口頭発表が 1 回以上あることが望ましい。
4. 遅くとも提出 1 年前に博論概要を指導教員に提示し、執筆と提出に関して同意を得ていること。博論は学術的に新たな独自の知見を含むものでなければならない。以後も定期的に指導を受けていることが望ましい。

使用言語
論文は原則として日本語。事情によっては英語、ロシア語を許容する場合もあるが、事前に指導教員の承認が必要である。

論文字数
日本語の場合は本文 60,000 字以上。欧文の場合は本文 30,000 語以上。上限は定めない。

論文書式
基本的にスラブ語学スラブ文学専修「卒論・修論の執筆について」を踏襲する。

その他
その他諸点については「京都大学大学院文が研究科課程博士論文執筆要綱（文学研究科共通ガイドライン）」に準じる。

学位論文執筆上の注意

【総記】

①論文は横書きにしてください。読点は「、」、句点は「。」を用いてください。

②日本語も欧文も、カッコはすべて全角を用います。その前後には半角スペースを空けません。ただし、全角カッコの中の欧文は半角にしてください。以下に個別にも書いていますが、引用や言及の場合には全角丸カッコ（　）、著者の操作やコメントの場合には全角角カッコ［　］で括ることを原則とします。

③改行後（段落替え）の後の文頭は、日本文は全角１字分下げ。欧文は半角 6 字分下げ。

④原稿の最後に、日本語名の人は（　）全角丸カッコの中に、ひらがなで姓と名を書いてください。姓と名の間に半角一字分のスペースを空けてください。中国語名の人は、全角丸カッコの中に、全角ひらがなで日本語発音を姓と名を半角一字分スペース空けで書くか、中国語発音を半角ローマ字アルファベットで姓と名の間に半角一字分スペースを空けて書くかしてください。アルファベット名の人は、全角丸カッコの中に、原綴りで姓と名の間に半角一字分スペースを空けて書いてください。

【注】

⑤注は文末脚注ではなく、ページ別になる通常脚注。本文中の注番号の位置は「。」「、」の後に統一。書式は、ワードの「参考資料」⇒右下の矢印をクリック⇒「脚注と文末脚注」の「書式」欄最初の項「番号書式」で半角洋数字（1, 2, 3…）に設定したうえで、「参考資料」⇒「脚注の挿入」をクリックする操作。

⑥句読点の後の注では、注番号の前にはスペースを置かず、後にだけ半角スペースを空ける。注番号を字間に直接挿入する場合には、注番号の前と後にそれぞれ半角スペースを空ける。

⑦注における単行本の出典の表記の際には、欧文・露文とともに書名の後に、刊行地：出版社、刊行年　を付す。日本語文献の場合は出版社のみで可。

⑧誌名の後に、出版母体を書くかどうかは、執筆者の判断によるが、煩瑣を避けることを旨とする。『群像』等の著名誌、『新潮』『みすず』『山形大学人文学部年報』など誌名に出版母体名が含まれている場合は不要。『言語・文化論集』のように出版母体の判断が困難な場合は、「筑波大学現代文学・文化系」といった機関名を、誌名＋読点の後に続ける。

⑨脚注欄の数字の後ろのスペースは、半角スペース一字分空け（初期設定では、自動的にそうなります）。

⑩論末に参考文献表は不要です。出典等は、できれば注で提示してください。ただし、注を（文献１：ページ数）という形で示す場合は、番号を付した文献表が不可欠ですから、この限りではありません。

【引用】

⑪本文から独立した引用は、前後 1 行ずつ空け、全体を2字分インデント右下げ。

⑫引用は、原則として日本語訳のみ。論理展開のうえで原文・言語の挿入が必須の場は合、日本語訳の対応箇所の後に、全角丸カッコに入れて半角で示す。

【ルビ】

⑬ルビは認めない。必要な場合は、「万歳（ウラー）」のように、該当する語の後に（ルビ相当の文字）で記す。

【言及、年号など】
⑭作品名は論考中で初出の際のみ、『日本語題名』の後に（原つづり、発表ないし刊行の年）を付す。
⑮作家名は 論考中で初出の際のみ、原則として姓＋名のカタカナ表記の後に（原つづりで名＋父称＋姓、生没年）を付す。ただし、漢字圏の作家の場合は姓名（生没年）。西暦は最大 4 桁をすべて記載。例：（1821－1881） 1945（昭和 20）年 等。2 回目以降は、不都合がないかぎり、姓のカタカナ表記のみで良い。
⑯漢字圏を除く研究者名は原則として姓のカタカナ表記のみ。原つづり等のデータは注に回す。姓の前に「ソ連期のロシア文学者」「現代ロシアのトルストイ研究者」などの短い定位があることが望ましい。
⑰論文、書評とも、原著に関するデータの提示は、引用本のページ数も含め、基本的に英数字半角に統一してください。ただし、章数など引
用に相当するものは原典に合わせる。
⑱中略、後略は［……］で示す。

文献引用の範例

●日本語
【書籍】
川端香男里『薔薇と十字架：ロシア文学の世界』青土社、1981年。
ドストエフスキー／亀山郁夫訳『罪と罰』（1・2・3）光文社古典新訳文庫、2008-2009年。
＊著者名と書名の間の「、」はナシ。
【書籍掲載論文等】
バーリン／生松敬三訳「二つの自由概念」、アイザイア・バーリン『歴史の必然性』みすず書房、1966年、3–96頁。
【雑誌掲載論文等】
菊田悠「変化の中の『伝統』解釈と実践：ポスト・ソヴィエト期ウズベキスタンの陶工の事例より」『アジア経済』46巻9号、2005年、42–61頁。
【オンライン文献】
村上春樹「共生を求める人々、求めない人々：映画『A2』をめぐって」
［http://news.kyodo.co.jp/kyodonews/2002/aum/］ 2006年3月22日閲覧。
【2回目以降の記載】
川端『薔薇と十字架』、48頁。
＊前項に続く場合は、場合に応じて、「同前、48頁。」でも良い。同じ頁の場合は、ページ数を省くのも可。

＊著者等の氏名は原典の通りとする。
＊掲載誌には、必要に応じて、出版母体を全角丸カッコに入れて誌名の後に示すこと。

●英語等
【書籍】＊ファーストネームから書く。
Christpher Ely, *This Meager Nature : Landscapes and National Identity in Imperial Russia*, DeKalb: Nothern Illinois Univesity Press, 2009.
【編書掲載論文】

Daniel R. Brower, Islam and Ethnicity: Russian Colonial Policy in Turkestan,. in Daniel R. Brower and Edward J. Lazzerini, eds., *Russia's Orient: Imperial Borderlands and Peoples, 1700-1917*, Bloomington: Indiana University Press, 1997, pp. 115-135.

【雑誌掲載論文】

Nancy M. Wingfield, The Politics of Memory: Constructing National Identity in the Czech Lands, 1945 to 1948. *East European Politics and Societies* 14, no. 2, 2000, pp. 246-247.

【2回目以降の記載】

Ely, *This Meager Nature,* p. 158.　あるいは

Ely, *Ibid,* p. 158.

前項に続く場合は、場合に応じて、姓やページ数の記載を省いても良い。

●キリル文字表記

【単行本・資料集等】＊姓、名前と父称の頭文字の順で書く。

Голубинский Е.Е. История русской церкви. Т. 2. Ч. 1. М.: Университетская типография, 1900. С. 394-413.

【編書掲載論文】

Боханов А.Н. Сергей Юрьевич Витте // Российские реформаторы (XIX.начало XX в.) / Под ред. А.П. Корелина. М.: Международные отношения, 1995. С. 125-127.

【雑誌掲載論文】

Черменский Е.Д. Земское либеральное движение накануне революции 1905-1907 гг. // История СССР. 1965. № 5-6. С. 157.

【2回目以降の記載】

Голубинский. История русской церкви. Т. 2. Ч. 1. С. 394-413.　あるいは

Голубинский. Там же. С. 394-413.

前項に続く場合は、場合に応じて、姓やページ数の記載を省いても良い。

●英語以外のラテン文字表記言語については、基本的に「英語等」に準じる。ただし、「ページ」を示す略字は言語によって異なるので注意すること。